

連携医療機関のご紹介

今回は、広電宮島線古江駅至近にある『古江駅前内科』の 高田 俊介 先生です。



高田院長

医療法人尚志会 古江駅前内科

〒733-0873 広島市西区古江新町 3-7
新本ビル 2 階
電話 / 082-273-1211
院長 / 高田 俊介 (たかた しゅんすけ)
診療科目 / 内科・消化器内科・
内視鏡内科・呼吸器科・
胃腸科・循環器科



新本ビルの 2 階に
あります



入口

○貴院の成り立ちについて教えてください。

昭和 53 年に父が開院したのが始まりです。私もこの町で生まれ育ちました。昔から、閑静な住宅街という雰囲気ですね。神戸大学に進んだことで地元をいったん離れたましたが、卒後、広島大学病院で研修を受け、同院や安佐市民病院などで勤務医として経験を積んだのち、平成 27 年に、医院を改装、当院で勤務を始めました。名誉理事長である父と、副院長の妻とドクター三人体制で診療にあたっています。女性医師の存在により、女性ならではの症状も安心してご相談いただけたと思います。

○診療において大切にされていることは？

患者さんに尊敬の念をもって接することだと思います。内視鏡検査を受けられるときは、不安になる方もありますが、そこであまり苦しい思いをされると、次回必要になった場合の検査を受けていただけないことになりますので、お声がけなどコミュニケーションに配慮するよう努めています。患者さんの利益になるよう、病気の治療の道筋を立てられるよう、と思って診療に当たっています。

○かかりつけ医として、介護事業所等の関係機関と連携を取られることはありますか？

当院では往診は行っておりませんが、主治医意見書の作成など要請に応じて柔軟に対応しております。

専門分野である消化器疾患や内視鏡検査だけでなく、いろいろな疾患をしっかりと診療することによって地域医療に尽くしていきたいと考えております。

○県病院はどんなところでか？

各科にエキスパートの先生が揃っておられる印象で、どの科にも信頼して患者さんを紹介できますが、特に同門の先生が多数いらっしゃる消化器内科・内視鏡内科には消化器疾患の診療や内視鏡治療など大変お世話になっております。また、総合診療科・臨床腫瘍科は他院よりもしっかりと専門性を重視して活動しておられると思います。



受付・待合室



内視鏡処置室

【取材後記】

非常に柔和な語り口で、古江で長く営まれている医院についてお教えいただきました。小児科は標榜されていませんが、広いキッズスペースがあり、乳幼児を連れて、自身が体調不良で受診される親御さんはとても助かるであろうと一目で思いました。今後とも当院との連携を宜しくお願い致します。



県立広島病院広報誌

もみじ



県立広島病院 ☎082-254-1818 (代)
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

第201号
2025.11.1
発行



理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

教えて
Dr. 87

救急科の活動



救急科 副部長
山本 真紀



当院救急科では、救急外来や ICU など病院内での治療だけではなく、病院前救急診療にも力を入れて取り組んでいます。

● 病院前救急診療とは

病院前救急とは、医師や看護師が患者さんのいる現場に出向き、一刻も早く診療を開始することで重症患者さんの救命と予後改善を目標に行う病院外での活動です。病院で待っていても救えない命があること、救急救命士の処置にも法的な限界があることから、攻めの救急医療を展開しています。一方、延命治療の希望がない方などは、患者さんの状況を医師が的確に判断の上、ご家族と相談し治療の範囲を現場から決定することも可能になります。病院前救急診療として、当科ではドクターカーとドクターヘリを運用し、活動しています。

● ドクターカー

2018 年 7 月から広島県で初めてドクターカーの運行を開始しました。119 番通報を受けた段階で、重症と予想されるキーワードを聞いた消防本部からドクターカー要請を受けると、当院の専用車両に医師と看護師が乗り込み、1 秒でも早く出発します。患者さんの待つ現場に直接向かうこともあれば、先に到着した救急隊により患者さんの搬送を開始してもらい、消防署やコンビニで救急車と合流（ドッキング）することもあります。当院のドクターカーでは患者さんの搬送はできないため、救急車に医師・看護師が乗り込み、患者さんの初期診療を開始しつつ、当院を主とした医療機関への搬送を行います。また、全国でも数少ない新生児搬送も行っています。県内の他病院で誕生した新生児のうち、周産期医療センターでの管理が必要な場合、新生児科・小児科医師がクベースと呼ばれる保育器とともにドクターカーで新生児のもとに向かいます。新生児を保育器に収容した上で救急車に医師が同乗して、当院まで安全に搬送しています。



当院のドクターカー

次ページに続きます→

県立広島病院からのお知らせ

がん医療従事者研修会

開催日時 令和 7 年 11 月 11 日 (火) 18:00 ~ 19:30
場所 中央棟 2 階 講堂
テーマ 県立広島病院での薬薬連携の深化
対象 医療従事者及びその関係者
問合せ先 総務課管理係 (担当/安原)
☎082-254-1818 (内線/4271)

医療現場における KAIZEN 研修会

開催日時 令和 7 年 11 月 29 日 (土) 13:00 ~ 16:00
場所 広島県医師会館 1F ホール or オンライン
内容 改善活動事例発表及び講演など
参加申込 二次元コードから申込下さい
お問合せ マツダ病院 QC 推進チーム
☎080-6300-6158



11 月のがんサロン

開催日時 令和 7 年 11 月 21 日 (金) 14:00 ~ 15:00
場所 新東棟 2 階 総合研修室及びオンライン
テーマ 大腸がん
講師 内視鏡内科 佐野村 洋次 医師
対象 がんを経験された方やそのご家族 (当院受診歴不問)

問合せ先 がん相談支援センター
☎082-256-3561
hphchiikirenkei@hpho.jp

二次元コードからも
参加申込できます！



ドクターヘリ

2013年5月に広島県ドクターヘリの運航が開始され、広島大学病院と協力し運行に携わっています。観音にある広島ヘリポートにドクターヘリ基地を設置し、フライト医師・看護師が基地に常駐し、要請に応じて速やかに出動できる体制を整えています。ドクターヘリは操縦士の目視が可能な状況のみ飛行可能であり、日没後や天候不良時は運行できません。また、重症患者さんが複数いる場合やドクターヘリがすでに活動中に別のヘリ要請が生じた場合には、院内で勤務していた医師が病院屋上のヘリポートからヘリに乗り込み、複数のスタッフで現場へ向かい現場から治療を開始します。時には広島市消防局ヘリや広島県防災ヘリに乗り込み、第2、第3のドクターヘリとして現場に急行しています。島根県や山口県など、県境を越えて活動することもあります。参考までに、診療費用の請求はありますが、ヘリコプター搭乗費用の請求はありません。



広島 PUSH プロジェクト

ご紹介したように私たちは病院前救急診療にも力を入れており、他病院や消防機関と協力して日々活動していますが、119番通報から救急車が来るまでに全国平均で約10分かかると言われています。もし患者さんが心停止している場合、救急隊到着までに一般市民が胸骨圧迫を開始することができれば、1ヶ月後の生存率が2倍近くに上昇するというデータもあります。また、日本には約80万台のAEDが普及していますが、使い方がわからないために緊急時に使われることが少ないのが事実です。

患者さんの救命の連鎖を広げるために活動しているPUSHプロジェクトをご存知ですか。

PUSHプロジェクトとは、心肺蘇生の中でもっとも重要な胸骨圧迫とAEDの使い方を医療者ではない方にも学んでいただける講習会です。突然倒れた患者さんを救命できる地域づくりを目指しています。一般講習会の他に、学校や職場など依頼者の元に出張して講習会を開くことも可能です。一人でも多くの患者さんの命を救うため、ぜひ一緒に備えませんか。



AED講習を受ける当院職員

修道中学校・修道高等学校の皆様ありがとうございました！

令和7年10月11日（土）に、修道中学校・修道高等学校の先生と生徒さんが、ボランティア清掃活動の為に来院されました。患者さんが使用されている車イスとシルバーカーを一台ずつ丁寧に座面や背もたれ、キャスターやブレーキなどの細部にわたって清掃とメンテナンスをしていただきました。おかげさまでピカピカになり、患者さんが安全に気持ちよく車いすを使用できるようになりました。

修道中学校・修道高等学校の皆様、令和4年から始まったボランティア活動も4回目を迎えました。毎年参加していただきありがとうございます。



リハビリテーション科からのメッセージ

◆リハビリテーションとは

リハビリテーションの語源はラテン語で、re（再び）+ habilis（適した）すなわち「再び適した状態になること」「本来あるべき状態への回復」などの意味をもっています。

リハビリテーションは病気やケガが原因で、心やからだの機能・構造の障害と生活上の支障が生じたときに、その人とその人が生活する環境に対し、多数の専門職種が連携して、問題の解決を支援する総合的アプローチの総体を言います。ん～？？？難しい！！

多くのみなさんがお持ちのイメージは「機能回復」ではないでしょうか？しかし、それだけではなく「**その人らしく生きるための、すべての活動**」がリハビリテーションなのです。

◆リハビリテーション科の紹介

当院のリハビリテーション科には、リハビリテーション専門医と3部門の療法士がいます。

専門医が患者さんの状態を診察し、必要に応じてリハビリテーションの指示を出し、療法士がマンツーマンで患者さんにリハビリテーションを提供しています。

主に入院患者さんに対し、急性期のリハビリテーションを提供しており、外来リハビリテーションは行っていません。これまで「0歳から104歳まで」、さまざまな疾患をもつ患者さんにリハビリテーションを行ってきました。

3部門は、「運動療法＝理学療法士：PT」「作業療法＝作業療法士：OT」「言語療法＝言語聴覚士：ST」から成り立っています。

運動療法は「起きる」「座る」「立つ」「歩く」などの基本的動作に対し、作業療法は「食事」「トイレ」「着替え」「整容」「家事」「趣味」などの日常生活動作に対し、言語療法は「言葉がうまく話せない」「言葉を理解できない」などのコミュニケーションに対し、主にアプローチしています。

そして、患者さんの機能の改善だけでなく、患者さんの生活環境（自宅、病院、施設等）や患者さんにかかわる人たちにもアプローチしていくのがリハビリテーションです。

それぞれのアプローチの仕方は違うけれど、患者さんに寄り添って、その人らしい生き方につなげていけるよう、日々、取り組んでいるところです。



屋外歩行練習場：心のおアシス



患者さんからのご意見

インフルエンザにかかった為、外来予約時間の変更をお願いしようと電話したら、「変更の時間は午後3時までです」と言われた。受診予約に関する大事なことなので、予約票にはっきり記載して欲しい。



予約変更受付時間の予約票への表示について

貴重なご意見を頂きありがとうございました。当院の予約変更受付時間帯は診療科により異なっており、各外来は予約変更に関わる受付時間及び連絡先を記載した用紙をお渡しすることとしております。また、当院HP「外来のご案内」ページの「予約の変更が必要な方」にもご紹介しているところです。システム上、予約票に変更受付時間を直接掲載することは難しい為、今後は予約票の下部に注意書きを掲載することにいたしました。

今後ともご理解、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。